

文芸春秋

1

立川と語ろう 立川に生きよう
January 2006
écoutez bien Vol.24 No.254



写真：五米孝平



豊穰の祈り

正月は一年の始まり。新年の豊作を祈る農事の初めでもある。

初作はその年最初に畑を耕し、豊作を祈る大切な神事。

小正月に飾る繭玉やアボヘボなど、伝統的行事の素朴な形に、農民の豊穰への願いが込められている。

初作は農家の仕事始め。1月11日、鏡開きや商家の蔵開きと同じ日に畑に榊を立て、餅と米を供える。鋳を3回入れて畝を作り、祝詞を挙げ二礼二拝、米粒を畑に播く。餅はカラスに供えて畑を荒らさないようにと祈る。

農業をめぐる儀礼は、予め豊作を祝う形をとる。予祝である。繭玉は蚕が枝いっぱい繭を付けた形を米粉の団子で作り、アボヘボは割竹の先に皮をはいだヌルデの木っ端を付け、たわわに実った粟や稗の穂に見立てて堆肥場に立てる。

春の七草をトントン叩きながら無病を祈る唄を歌う七草粥、鏡餅を割って作る汁粉——伝統的な行事や食べものの作りを体験しながら、こもれびの里人たちも、新しい年の豊作を願う。霜柱や雪はあっても、厳しい寒さの中に春が少しずつ近づいてくる。



野中 進さん (国分寺市在住)

農業高校、農大と40年近く農業教育に携わってきた、家の近くの市民農園の抽選に外れた時に、こもれびの里クラブの募集を知って参加しました。「人は人中、田は田中」という諺がありますが、自然を相手にする農業は奥が深い。最高の総合的教育的の舞台だと思います。

古い薬から、時代と人々の願いが見える



於：錦町のご自宅で 写真：五来孝平

薬剤師・おくすり収集家 平井 有さん

■平井 有(ひらい・たもつ)／昭和27年立川生まれ。北里大学薬学部卒業。昭和49年に錦町の実家で漢方主体の薬局を開き、昭和56年に立川駅南口の現地にアイワ堂薬局として移転。立川市薬剤師会会長など本業で活躍する一方、薬と薬に関係する品々の収集家でもある。薬剤師会が毎年開く「健康のためのくすり学フェア」でも一部を公開している。
■芳賀敏博(はが・としひろ)／えくてびあん編集人

平井 どうぞ、このあたりに座ってください。ふだんは集めたものでいっぱいなんです。今日は写真撮影をするというので、これでも片付けたんですよ。

芳賀 ご自宅の2階が全部コレクションで埋まっているんですか。階段にも梱包したのがありますし……昔の薬や、薬に関係する幅広いものを集めていらっしゃるようですが、全部でどのくらいの数になるんですか。

平井 平成14年の11月に数えたのが最後ですが、その時点で6,551ありました。それから3年経ってますから、8,000点くらいになっているでしょうね。もう限界で数えきれない。

芳賀 薬剤師さんだから薬はお仕事と関係があるわけですが、どうして古いものを？

平井 もともと歴史とか神社仏閣とか、古いものが好きだったのがありますね。15年ほど前になりますが、たまたま高幡不動で骨董市が開かれていたので覗いてみたら、お歯黒が出ていたんです。話には聞いたことがあっても、今は映画の時代劇でもお歯黒は見られない。他に古い薬もいくつか出ていて、こういうものも集めてみる価値があるんじゃないかと思ったのが初めて。薬の他に薬的なものと言いますか、昔の薬屋さんが扱っていた品とか看板、チラシ、ポスターのようなもので、薬に関係するものは何でも集めるようになってしまいました。

芳賀 フロム中武で開かれる「健康のためのくすり学フェア」の展示や、立川市薬剤師会の会報に連載されたものは市の図書館

でも見ることができますが、よくまあこれだけ集められたと感動してしまいますよ。ネーミングの奇抜さに思わず笑ってしまうような薬があったり、風邪薬には美人の絵柄が多くて下痢腹痛の薬にはなぜか苦しむオジサンが多いとか、平井さんの解説の切り口もユーモラスで実に面白いですね。置き薬のおまけのくわいあわせの絵なんかは僕も見ただけで懐かしいし……。

平井 コレクターの世界では、何でもいから分野を決めたらまず100個集めろというんです。どんなものでも100個集まると、そこから見えてくるものがあると。ひとつひとつをとったただのゴミやガラタでなくても、数が集まると年代とか地域性とかで分類できますからね。それにしても震災や戦災をのりこえてよく残ったものだと思いますが、くわいあわせの絵は、その前にあったく引き札から変化したものでして……(と引き札のコレクションを出してくる)和紙に木版で刷っていますが、きれいで凝ったものでしょ。福の神とか武者、神話などの縁起のいい絵を当時一流の絵師に描いてもらい、曆にもなっている。毎年得意先に配ったんです。同時に引き札やくわいあわせには自動車や飛行機などの先端に行く風俗が描かれたり、戦争を反映していたり、その時代を知ることもできる。箱の代わりに置き薬を入れておいた預け袋などを含めて、描かれている内容を考察していても面白いんです。やっているときりがない。

芳賀 でも、こうしたものや薬のパッケージなどを見ていると、何というか、健康でいたいという庶民のせつないほどの願いが伝わってくるような気がします。

平井 「ケロリン」のネーミングやデザインをまねた数多くの類似品なんかは、今では訴えられそうなものもありますし、多くの中にはかなり怪しげな薬もあります。が、総体として人の病気を治してあげたいとい

う願いで作られている。パッケージのデザインなんかは絵描きさんが手で描いて、似ている中にも個性や違いを出そうとしています。大変なエネルギーだと思います。薬は身近なんです。一生の間に薬のお世話にならない人はいませんからね。老人ホームなどでお年寄りに見てもらうと、自分の知っている薬があるととても喜ばれます。その時代のことが思い出されて記憶力も刺激されるようなんです。みんなどこかで薬と自分のつながりを持っている。そういう意味でも面白い。

芳賀 こうやって見せていただくと、江戸時代から本当にたくさん薬があったんですね。日本人は薬が好きなのかしらん。

平井 そうですね。今でも外国と比べて薬の使用量が多いですし、医療費の問題でもまず槍玉に挙げるのは薬の使い過ぎです。次から次に新しい薬が出て来ますしね。結核は以前はとにかく抗生物質などの薬で治療するというようになっていきましたが、そうすると抵抗性の菌が出てきて薬が効かなくなってくる。最近ではからだの免疫力を強くすることの大切が見直されて、東洋医学が改めて評価されています。近代医学はだめで古くからの東洋医学がいいということではなくて、それぞれの良さを組み合わせることが大事なんですね。古いものは確かに古い。しかしそれも人間の経験であり知恵です。古いからといって捨てるべきではないと思います。

芳賀 平井さんのコレクションは、そういう知恵の証拠物件みたいなものだ！

平井 いやいや(笑)。面白いと思って見ていただければいいですよ。例えば……これはDDTです。DDTやBHCはシラミやノミを殺す殺虫剤として戦後、頭や服の中にかげられました。今では残留毒性の問題が大きくて使われませんが、その時代には恩恵を受けた人もたくさんいたんです。過去の失敗の基盤があって現在がある。負の財産は負の財産としてプラス面も見えないとい

ないと思います。一方では……こんなものもあるんです。「ハエトリック」といって尾張の時計屋さんが作ったハエ捕り装置で、ゼンマイ仕掛けで、こうゆっくりと回っているうちにハエが出られなくなる。1時間で500匹以上のハエが捕れたといひます。ガラスのハエ捕り管とか、昔は殺虫剤を使わないハエ捕りを工夫したんですね。ハエ捕りリボンは今でも生き残って使われています。殺虫剤も使い続けると耐性のある虫が出てきますから、こういうものも見直していいかもしれません。

芳賀 それにしても、本業があり、薬剤師会の会長もされてお忙しいなかで、こういうものを集める平井さんのエネルギーも大変なものだと思いますよ。

平井 いやあ、コレクターと呼ばれる人には、もっとすごい方がたくさんいますよ。骨董市はだいたい日曜日の朝から開かれますが、都心の方に行くときは立川駅で朝一番の特別快速に乗ります。すごいコレクターになると、夜が明ける前に懐中電灯を持って行くんです。車から荷を降ろす前にめぼしいものを見つけて交渉する。私の場合は、それほどではありませんが、看板とか大きくて重いもののは一苦労します。ここにあるもののはほとんどが、そうやってぶら下げて帰ったものです。室内の大きなイベントでは昼過ぎまで見て回ることもあります。普通の骨董市では早ければ9時くらいには戻りますから電車もそう混んでいないです。意欲だけでなく、体力も必要なんです(笑)。



ディサービスセンター Aso	富士見町1-4-29 524-7231
スーパー 肉のハナマサ	富士見町1-18-10 548-2970
手作りケーキの店 プティパニエ	富士見町1-22-30 529-8364
西立川児童会館	富士見町1-23-6 525-0571
さえき 西立食品館	富士見町1-23-13 529-5333
(株)ヤマダ電機	富士見町1-24-9 526-1099
株式会社 ダイクマ 立川店	富士見町1-24-9 526-1046
井上レディスクリニック	富士見町1-26-9 529-0111
中華レストラン 東華園	富士見町1-27-10 529-0458
榎本調剤薬局	富士見町1-31-18 526-2322
フルーツ&ベジタブル 三登屋	富士見町1-32-17 522-3021
有料老人ホーム サンビナス立川	富士見町1-33-3 527-8866
飯塚花店	富士見町1-33-5 522-5684
うさぎ専門店 ラッキーラビット	富士見町2-11-7 524-6054
一級建築士事務所 株式会社 ホーミー	富士見町2-12-3 522-2220
家庭料理の店 つくし	富士見町2-12-10 526-6016
有限会社 白洋舎	富士見町2-24-16 522-5952
波多野米店	富士見町2-32-34 522-2884
立川市社会福祉協議会 市民活動センターたちかわ	富士見町2-36-47-2F 529-8323
桜井電材株式会社	富士見町3-2-13 523-5281

えくてびあんの輪
立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります

今月は 富士見町・砂川町・柏町・泉町のお店です。

立川歴史民俗資料館	富士見町3-12-34 525-0860
室内装飾専門店 株式会社 アイアイ	富士見町4-9-8 522-5972
多摩中央信用金庫 富士見町支店	富士見町4-9-22 528-1741
酒 ESPOA おぎの	富士見町4-17-7 522-4500
株式会社 立川印刷所	富士見町5-6-15 524-3268
SHOP99 立川富士見町店	富士見町6-15-3 540-1799
JA経済センター 立川店	砂川町2-44-3 536-1824
JA東京みどり 立川支店	砂川町2-44-3 536-1821
陶工房 己流庵	砂川町3-41-6 537-6102
多摩中央信用金庫 砂川支店	砂川町4-2-3 535-4411
山梨中央銀行 立川支店	柏町1-16-1 536-0871
ペーカリー リオンドール	柏町3-3-5 535-4882
江戸蕎麦 由庵	柏町3-14-2 523-9636
ピーコック 玉川上水店	柏町4-1-2 538-3861
菅家医院	柏町4-2-15 536-4602
ドレスショップボワッソル・ルージュ	柏町4-56-10 534-6567
うなぎ専門店 うなちゃん	柏町4-61-13 536-6240
レストラン&BAR WEST PORT	柏町4-64-3 536-4569
ABC HOUSING	泉町935-1 540-4305
東京消防庁 立川消防署	泉町1156-1 526-0119

描いて作って、 その数1000

青木昭平さんの和風

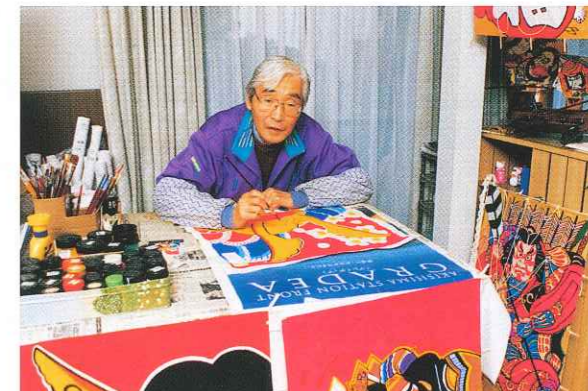
冬空に高く揚がる凧。揚げやすいアメリカ生まれのカイトが主流になってしまっても、勇壮な武者絵などを描いた和凧は、やはり威風堂々として他を圧する。砂川町の青木昭平さんが作るのも伝統的な和凧。武者絵や歌舞伎を題材にした江戸凧が多い。趣味で始めたとはいえ手描きの凧絵は見事な工芸品。これまでに作った凧の数は大小とり混ぜて約1000に達する。



五つが組になった縁起物の小凧



日に一度は自室で凧絵を描く



凧の絵柄のもととなる下絵



青木家の玄関を入ると、すでにそこは〈凧ワールド〉。壁一面に色鮮やかな凧が並ぶ。それでも、これまで作った約1000枚のうち、手許に残っているのは1割くらいだという。ほとんどは望まれて他所に行った。売ったものは一つもない。すべて「壊れるまで大切にしてくれる」条件でプレゼント。いくつかは立川市歴史民俗資料館に所蔵されている。

役所勤めをしていた青木さんが退職後、凧を作るようになったのは東大和市で凧を作っていた方との出会いから。指導を受けながらやがて自宅で作るようになった。中学時代、美術部で商店のポスターを描いていた絵どころが呼び覚まされたのかもしれない。

奴凧や達磨など日本各地の伝統和凧も作るが、い

ちばん多いのは江戸凧。川中島の合戦、鎮西為朝、加藤清正の虎退治、歌舞伎などを題材にした錦絵はにぎやかな絵柄と色彩に人気がある。旅行した地方の伝統芸能、歌舞伎屏風、津軽ねぶたなど、凧絵に向きそうな新しいテーマも取り入れる。05年はテレビドラマになった義経も多く描いた。

凧は子どもの遊びというだけでなく、古くは敵陣との距離を測る兵器だったこともある。伝統的な和凧の絵柄には呪術的な意味も込められ、揚げて楽しむだけでなく祝いや贈答用にも珍重された。青木さんの凧もいくつかは海外に渡っている。

今や珍しくなった手描きの和凧を愛し喜んでくれる人がいて、青木さんの凧作りは続く。

自宅の玄関を入ると凧、凧……



立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ

**多摩てばこ
ネット**

http://www.tamatebako-net.ne.jp/

多摩てばこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武藤ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄
真如苑提供番組くじょうくじょう

スカイパーフェクトTV 216ch、マイ・テレビ 84ch

土 曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送/火 曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十九年
真如苑
柴崎町1-2-13 Tel.527-0111(代)

SEIBU
西武信用金庫

幸町支店
〒190-0002 立川市幸町2丁目11番地34
tel.042-537-3101 (代) fax.042-537-3648

私たちは「と」のための会社です。

人と人、企業と企業、企業・商店とお客さま……
いろいろなコミュニケーションがあります。
私たち大廣社は、この「と」を的確に、迅速に、効果的に、
行っている会社です。

と

大廣社は、企画デザインから
印刷加工までを自社で行っています。

PLANNING・DESIGNING
PROCESSING・PRINTING
大廣社
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
TEL 042-527-1949 FAX 042-527-1949
E-mail info@daikousya.jp

えくてびあん流

立川文化を支えた「審査なし賞もなし」 第60回展を迎えた立川美術会

終戦間もない昭和24年、創立第1回展を開いた立川美術会(関一男会長)が今年、第60回の記念展を迎えた。11月20日から26日まで、昭和46年以来会場としている中央公民館大ホールで展覧会を開いたほか、初の画集も刊行。初日夕、立川グランドホテルで開いた記念パーティーには青木市長ら来賓も出席し、立川文化の一翼を支えてきた美術会の「選展」を祝った。

美術会前史は昭和21年、高松町の梅田市作氏が呼びかけて南口で開いた当時一流の美術家による展覧会。そこに集まった画

家たちを中心に美術会が結成され、当初は春秋2回の展覧会を開いてきた。設立会員で2代会長をつとめた彫刻家の土井鼎さんたちや物故者の関係者も出席し、パーティーは終始和やかな雰囲気。プロ、アマを問わず「審査なし賞もなし」で運営してきた歴史と伝統は、立川の誇りといっている。



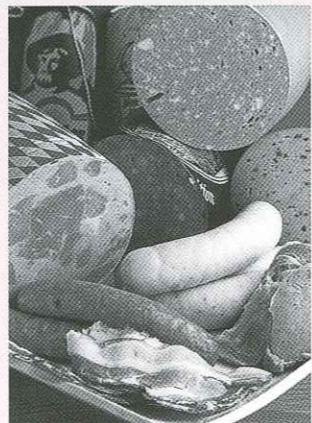
会場の中央公民館も和やかな雰囲気

この人この店 ③

ドイツ製法ハム・ソーセージ ゼーホフ工房

オーナー 松澤達市さん

幸町団地南側、立川四中近くに新しくできたゼーホフ工房。生の腸詰めソーセージはゆでずにそのままフライパンへ。3分ほどで火が通り、噛めばほどよい脂が口中に広がります。ドイツの定番、白いソーセージヴァイスヴルストはたっぷりのお湯でゆでます。あつあつの皮をちょっとむいて、粒マスタードをつければ気分はもうミュンヘン。できたてのベーコンは、スライスしてそのままいただきます。深い香り味わいは、パンにはさんでもポトフに入れても絶品！コンビーフもレバーペーストもドイツサラミも、ちがうものよう。これが本物の味？「素材は充分吟味した新鮮なものを使い、添加物も必要最低限にしています。好きだからできるんですよ。手間がかかっていますから」と松澤さん。お値段も手頃で欲しい分だけけてもらえます。おいしいものを造り出すのがおもしろいとおっしゃる松澤さん。本当においしいです。



これが全部、松澤さんの手造り。



〒190-0012
立川市幸町4-59-4 三洋ハイツ103
TEL 042-535-5009
営業時間 10:00～20:00
定休日 水曜日

写真撮影：五来孝平

◆ タチカワ誰故草 ③ ◆ めでたい美貌

森 忠明

深夜、BS2で五代目古今亭志ん生の古い映像「風呂敷」をやっている、途中ヘイラスト「ハビイ氏橋」のテロップが出た。おつ、やっつるな、と愉しくなった。

一昔前、彼が富士通の幹部社員だった時、画家として独立するがすまいか迷っていたので、「大企業エリートとしてWhat Then?、ソレドウシタてなもんです。第一あなたは絵かきの顔」。私の放言を真に受けて退社した彼を、内心案じていたのである。

ハビイ氏、まだ四十半ばなのに、レトロ芸能事情に通暁。特に女優論は博士号もの。

過年、パレスホテル立川のバーで、「もうウブじゃない森さんの産土タチカワは、女優でいうと誰のイメージですか」と質問されたことがある。

「曙町と羽衣町ではかなり違うし時代によっても違います、トータルすると昭和三十年代は夏木マリ。平成以降は赤座美代子かな。ぼくが好きな柴崎町と富士見町は貞潔な感じのする日色ともあつてとこでしよう」。



挿画：野崎義成

同じ頃、月刊の学習雑誌「高三コース」詩の投稿欄の常連だった私は、「そしてほくはニッポンの若い……」と題した長編詩を選者の寺山修司へ送った。ヘイロイン・アンネ・ヒイロ・トモエの傍白よ、溶暗よなる気障なフリーズがあるそれは一位に選ばれたが、賞品は安価なアルバムだけだった。

二〇〇二年、自分の若書き詩集を出版するに際し、「そしてほくは——」も載せて恩人の方々に献本したら、恩人のひとり、竹内照夫氏(NHK東京児童劇団指導者、民藝俳優)より電話あり、「うちの日色ともえに見せたら喜びまして、ぜひ買わせていただきたい」と。すぐ謹呈。すぐ礼の葉書がきた。

「貴重な詩集をお送り下さいまして、ありがとうございます。竹内君から貴方の詩集をみせていただいた時は、びっくりやう嬉しいやら……。昨年は「アンネの日記」で母親役になりました。読み合せて、ふつとアンネの台詞を読みそろうになって……フフ。長い年月がたったのですね。日色ともえ。」

裏側は、深紅色の可憐な花と女史とのツーショット。四十年前と変わらぬ、いやそれ以上の美貌！写真の下部に白スキの字で、六年越しにめぐり合った緋色トモエ草と、甲州、乾徳山、扇平にて。

ともえ女史を含め、我が思春期に胸ときめかせた名花六輪。江波杏子、新高恵子、金井克子、十朱幸代、美輪明宏、諸姉の美貌息災は誠にめでたいことである。

表紙の人

井尾 裕子さん(富士見町)

大正11年に立川駅北口で開院し、北多摩医師会会長や立川信用組合(現在の多摩中央信用金庫)理事長、市になって初めての立川市議会議長などをつとめた井上権吉さんが祖父、産婦人科医として活躍した正士さんが父。平成3年に曙町から富士見町に移った井上レディスクリニックの院長。プールやスタジオ、託児所などを備えた先進的施設とともに、女性の立場に立った医療で多くの母親たちの信頼を集める。子育てや親と子の情操教育に取り組むNPO法人「マザーシップ」を立ち上げるなど、医療にとどまらない活動で女性たちの共感の輪を広げている。夫君の井尾和雄氏も医師。

井上レディスクリニックで
写真：細江英公

かたこと

明けましておめでとうございます。西暦2006年、平成18年丙戌、本年も「えくてびあん」をよろしくお願ひ申し上げます▼大晦日と元日、去年と今年に線が引いてあるわけではありません。それでも何か確実に改まったように感じられるから不思議です▼除夜の鐘が終われば初詣、産土参りに恵方参り、お雑煮、おせち、年始回り、門松、羽子板、獅子舞、風揚げ……▼昔ながらの風情は薄れてきたとはいえ、言葉を並べるだけでも浮きうきとした正月気分になります。日本人のからだにしみ込んだ感覚なのでしょう▼VIEWはお正月の空に翻る姿も美しい和風を描き、作る青木昭平さんです。揚げて楽しむもよし、見て楽しむもよし▼風に限らず、お正月の習慣習俗には、新しい一年が良い年であれという、人々の切実な願ひが込められています▼くわれらの村暦の農耕儀礼もそうですし、対談させていた平井さんが集める古い薬のネーミングや絵にも、健康でありたいと願う心に訴えるものがあります。昔も今も人間の願ひは基本的に変っていないと感じます▼表紙の女医・井尾裕子さん。命を産む女性に向き合い、新生児を抱いた姿は美しい。年の始まりを飾っていただきました。(芳)

スタッフ

編集 大久保清志/清水恵美子/中薫子
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)
AMNET design factory
写真 五来孝平/中村 伸/宮保大輔

えくてびあん (C) 1月号

第24巻 通巻254号
平成18年1月1日発行
発行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人 芳賀敬博
発行人 加賀悦也
印刷 (株)大廣社

無断転載を禁じます。



Standing River essay

群馬直美の“葉っぱの精神” [最終回]

ランタン・フェスタ

グ ランデオの入口広場から太鼓の音が響いてきた。人だかりの後ろから覗きこむと、鮮やかなスカイブルーのお獅子が舞っている。うねったり震えたり。うるこ状のフサフサと鼻についたぼんぼりが夢のように揺れている。パチクリ瞬きもしてかわいい。春節を祝う中国の獅子舞だ。

（生きた化石）と呼ばれるイチヨウもメタセコイアも、中国の奥地で生きのびていた。イチヨウが日本にやって来たのは鎌倉時代。中国に留学されたあるお坊さまが仏教と一緒に持ち帰った。メタセコイアは、誰に知られることもなく百万年間、中国の奥地で生きていた。発見されたのは一九四五年、奇しくも終戦の年。和名はアケボノスギ。

樽太鼓がとどろき、シンバルみたいな鉦がジャランジャラン打ち鳴らされると、スカイブルーのお獅子が立ち上がった。「うわあ、川が立ち上がった！」いろんなものが立ち上がる春がまたやって来た。



2001年8月14日 ギンナン

紙/テンペラ